

「孤立した現場に、確実な通信を。」

手のひらサイズの自律型・地域防災通信システム



※イメージです

課題とソリューション

【課題】通信の「初動孤立」をどう防ぐか？

- 大規模災害時、基地局ダウンにより地域が情報から切り離されます。
- 衛星インターネットサービスは、外部との連絡手段として有効です。一方で、避難所内での細かな情報共有には別途工夫が必要です。



【解決】ローカル通信での「補完」

- E-Post TinyBoxは、インターネットなしで動作する自律型サーバです。
- 避難所という「閉じた社会」の調整役として、情報のバラつきを抑え、円滑な運営を支えます。



3つのコア・テクノロジー



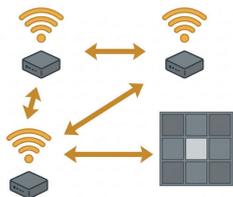
オフライン完全対応
でセキュアな通信



外部ネットが遮断されてもローカルネットワーク内でE2EE通信のメール・チャット通信が可能。



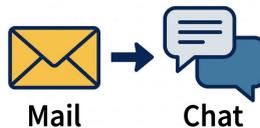
メッシュWi-Fi
による広域カバー



複数のユニットを連携させることで、大規模な避難所や障害物の多い建物内でもエリアを拡大。



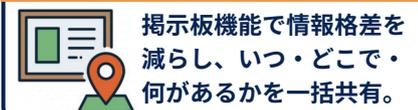
使い慣れたUI
「Delta Chat」採用



メールサーバ(E-Post)を基盤・初動としながら、段階的に直感的なチャット形式へ移行可能。

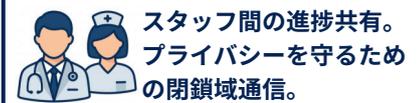
主な活用想定

避難所運営



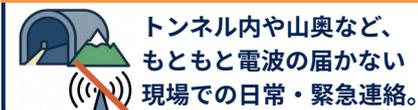
掲示板機能で情報格差を減らし、いつ・どこで・何があるかを一括共有。

救護・医療現場



スタッフ間の進捗共有。プライバシーを守るための閉鎖域通信。

建設現場・山間部



トンネル内や山奥など、もともと電波の届かない現場での日常・緊急連絡。